



フェローシッププログラム (海外自治体幹部交流協力セミナー) 25 周年記念イベントを開催

(一財)自治体国際化協会ニューヨーク事務所 所長補佐 高山 くみ子 (花巻市派遣)、是永 隆宏 (和歌山県派遣)

海外自治体幹部交流協力セミナーは、海外の自治体幹部職員などを日本の地方自治体に受け入れ、地方自治の現状と課題について情報交換や意見交換を行う事業です。これにより、日米の自治体の行政サービスなどの向上を図るとともに、海外自治体と国内の地方自治体および当協会との新たなネットワークの構築にもつなげ、日本の地方自治体および地域の国際化をより一層推進することを目的としています。

本事業は、毎年、クリア 7 つの海外事務所の所管地域を単位として実施されており、ニューヨーク事務所では、「フェローシッププログラム」との名称で、アメリカ・カナダの自治体や関係団体の幹部を日本に招聘しています。

今年度、同プログラムが開始から 25 周年を迎えたことから、本年 9 月にワシントン D.C. で記念イベントを開催しましたので、その様子をレポートします。

プログラム実施概要

同プログラムは、受け入れ自治体の現状や抱えている課題に即したテーマを設定し、「東京セミナー」と「地方セミナー」の 2 部制で実施しています。東京では日本の地方自治制度に関する講義および関係省庁との意見交換などを行い、地方（受入自治体）では行政視察と意見交換などを行います。プログラムの開始以来 25 年間で、シティーマネージャーや地方議会議



奇跡の一本松を訪れた参加者
(2017 年：岩手県陸前高田市)

員、市長、地方関係団体の会長などさまざまな役職の方が 200 人以上参加しました。

過去 5 年の受入自治体および内容は下記のとおりです。

開催年度	受入れ自治体 (参加者数)	テーマ
2013 年度	徳島県 (アメリカ 7 名 カナダ 1 名)	地域資源を活かした海外からの観光誘致の取組
2014 年度	兵庫県 尼崎市 (アメリカ 7 名 カナダ 2 名)	地域資源を活用した都市魅力の創造と発信 (尼崎版シティプロモーション)
2015 年度	宮城県 (アメリカ 8 名 カナダ 2 名)	東日本大震災からの復興状況 (過去・現在・未来) の発信と、大震災を契機とした宮城県の地域経済・産業活性化のための施策について
2016 年度	静岡県 静岡市 (アメリカ 7 名 カナダ 2 名)	子どもから高齢者まで健康的に長生きできるまちづくりの推進について
2017 年度	岩手県 陸前高田市 (アメリカ 7 名 カナダ 1 名)	震災と復興の経験・教訓と、「ノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくり」の取組みについて

フェローシップ参加団体との結びつき

北米地域、特にアメリカでは州ごとに地方自治制度が異なるだけでなく、州においても日本の都道府県のように地方自治体の情報を包括的に把握していません。このため、当事務所において調査やアポイントメントの依頼を行うに当たって、できる限り州政府や各レベルの地方政府とのつながりを持つことが大切となっており、特に、全米の州政府や州議会議員などをメンバーとする全国組織は当事務所にとって非常に頼りになる存在になっています。

そこで、当事務所では、フェローシッププログラムの参加者募集にあたり、BIG7 と呼ばれる地方関係団体 (全米知事会、州政府協議会、全米州議会議員連盟、全米カウンティ協議会、全米市長会、全米都市連盟、国際市・カウンティ支配人協会) などの、北米の州・地方政

府関係団体に協力を依頼しています。毎年、BIG7 等からの参加者に、実際に日本を知ってもらうことで、当事務所との関係を構築できる貴重な機会となっています。

さらに、セミナー参加後も、さまざまな機会を捉えて参加者および関係団体と意見交換の場を設けて、関係を維持し、結びつきを強固にしています。例えば、当事務所では毎年 BIG7 などが開催する総会に出席し、その際に当事務所主催レセプション (Japan Night) やフェローシッププログラム参加経験者との意見交換会の場を設けるなどの取り組みを行っています。

印象に残る記念イベントの開催に向けて

今回の記念イベントは、関係者の皆様に感謝の意を示すとともに、当事務所と同プログラム参加経験者との関係をより強固なものとし、将来の更なる連携に繋げるための新たな取り組みとして企画しました。当イベントでは、国土の広いアメリカとカナダから参加者を集めることが容易ではないことから、地方政府関係団体が多く拠点を持つワシントン D.C. を開催地としました。

イベントの構成は、前半に日本の地方自治体の同プログラムの受入れ経験やそのほかの国際交流事業などについて紹介する時間を設け、後半は参加者をもてなすレセプションを行うこととしました。前半の会場は、NGA (全米知事会) など BIG7 の複数団体からの提案により、彼らが事務所を構えるビルの一室を借りることができました。また、在アメリカ合衆国日本国大使館にレセプション会場について相談したところ、日米の関係を草の根レベルで構築している私たちの活動に賛同いただき、大使館旧公邸を利用させていただくことができました。

苦労したことと言えば、過去と同プログラム参加者に招待状を送るためのメールアドレスの確認作業でした。



大使館旧公邸前での記念写真

転職が多いこの地においては簡単なことではありませんでしたが、長年に渡って同プログラムを支えている当事務所現地スタッフの丁寧な作業により、大方の参加者に招待状を送ることができました。また、大使館が後援という形で招待状へのロゴ掲載などに協力してくださったことは、強力な後ろ盾となりました。

日本の自治体およびフレアの取り組みの紹介

今回、同プログラム参加経験者のほか、日本の過去の受入自治体の中から宮城県と鳥取県の職員を招聘し、イベントの前半において、これまでの経験や受入れ後の交流事例を紹介していただきました。

宮城県からは、受入れ時にテーマとして掲げた東日本大震災後の復興に向けた取り組みについて、直近の様子をご紹介いただきました。また、鳥取県からは、本年7月に締結したバーモント州との姉妹提携について、同州出身のプログラム参加経験者との繋がりも踏まえご紹介いただきました。

また、当事務所の所長から、日本の地方自治体の北米での活動の強化を図るため、各自治体の経済活動などを当事務所が支援していること、さらに、当プログラムのように日本と北米の相互理解のために草の根レベルで交



宮城県からのスピーチ



鳥取県からのスピーチ

流を促進することが当事務所が果たすべき役割であることを参加者にお伝えしました。

日本の魅力を最高の「おもてなし」で

大使館旧公邸で開催したレセプションでは、始めに相川次席公使からお祝いの言葉を頂戴し、次に当協会の磯部参与からプログラムの重要性と今後への期待が述べられました。また、アメリカから1994年、2005年、2016年に同プログラムに参加した3名の方と、カナダから2013年に参加した方から挨拶をいただきました。その中では、日本の地方自治体の取り組みを知ることのできた経験や、ホームステイで日本の生活を体験できたことの喜びが語られました。



相川次席公使のあいさつ



訪日の経験を語る参加者

北米からの参加者に喜んでいただくため、乾杯は宮城県と鳥取県の地酒、また、料理は日本食を提供するなど趣向を凝らしました。さらに、日本の伝統芸能に触れていただこうと、太鼓の迫力あふれるパフォーマンスを披露し、参加者には改めて文化を含めた日本の素晴らしさに目を向けていただく機会を作ることができました。

最後には、宮城県と鳥取県のグッズや観光パンフレット、日本の小物を入れたお土産バッグを配布しました。お土産は、イベントの開催を知った日系企業に勤める



レセプションの様子



迫力ある太鼓パフォーマンス

JETプログラム経験者から緑茶やお菓子などの寄付をいただいたことでより充実した品揃えとなり、参加者に満足いただけたことは、感謝の念に堪えません。

おわりに

25年続いてきたこのプログラムを、これまでの参加者とともに祝うことができたことは感慨深いものでした。北米と日本それぞれの参加者が交流を深められたこの機会が、今後の良好な関係継続に微力ながら役立つかと信じます。

参加者からのイベント参加への喜びの言葉はもちろん、参加できなかった方々からも、会場を彩る美しい花束や、訪日の際の貴重な経験や近況報告を含めたイベントの成功を祈る暖かいメールを頂戴できたことも、同プログラムの経験がいかに参加者にとって印象深いものだったのか実感するものでした。

今回、このイベントを機に参加者のためのフェイスブックグループを開設しました。参加者と当事務所の交流継続のため、情報発信を続けて一過性に終わらない関係作りを継続していきます。当イベントには宮城県、鳥取県からのご参加に加え、大使館や全米知事会の皆様にも多くのお力添えをいただきました。この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。